

2024年度 自己評価及び学校関係者評価書

2025.3

ひかり幼稚園

1. 教育目標

- キリスト教保育による心の育ちを大切にする（見えないものを大切にする[心・命・絆]）
- 自ら育つ力を守り、一人ひとりを大切にする
- 他者を認め、仲間と共に育つ心を大切にする

2. 年主題

- 『いっしょにかがやく』
- みんなといっしょにかがやく
 - 時も場所も超えていっしょにかがやく
 - それぞれの“ひかりかた”でいっしょにかがやく
 - 神さまからのひかりでいっしょにかがやく

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

項目	内 容	自 己 評 価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教育課程	・園の教育課程や年主題を理解しているか。 ・職員間で子どもに対する共通理解を持っているか。	B	今年度は、年主題を保育スペースにも掲げたことで、保育をしながら立ち返ることができた。ただ、日々の保育に追われると意識が向かなくなってしまうため、会議の中で教育課程や年主題に触れながら子どもの姿を捉えていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・教育目標や年主題を常掲化して目にする機会が増えた効果が表れている。 ・ひかり幼稚園の保育の全体像を図式化する試みが進行中だが、これも教職員、保護者、来園者の目に触れるようにすべきであろう。			
安全管理	・事故等の緊急時対応や安全点検も含めて、安全に配慮して保育をしているか。	B	一人で解決しようとするのではなく、複数の目で見ること多方面からの安全確認を行う。また、子ども自身が危機意識を持てるような時間を過ごすことも考える。園舎の老朽化を踏まえて、職員で園内を見回りながら点検を行う。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・施設設備の老朽化による不安に対して予防的に対応しようと意識していることがわかる。 ・園舎内の設備、園庭の不具合や懸念箇所の早期発見のために、チームを組んで定期的に取り組む必要がある。			
保育内容	・職員間の連携を図り、子どもに対して適切な対応をしているか。	A	毎日の振り返り会議にて共通理解に繋がっていると感じるが、会議に出席しないパート職員との時間を確保することに努める。子どもに対する思いやかかわり方は異なるため、担任を中心に丁寧に共有し保育をすすめる。	A	B
学校関係者評価委員による意見		・振り返り会議の時間が大切にされ、その意義は教師間で共有されていることがわかる。 ・振り返り会議に参加しない非常勤職員と常勤職員との間における情報量の格差が意識されており、そのための具体的な場面設定について早急に検討する必要がある。			

保健管理	・日々の園児の健康状態を把握し、一人ひとりに合わせて保育をしているか。	B	体調だけでなく心の揺らぎやご家庭の状況に思いを馳せ、変化に気づけるよう複数の職員で多角的に捉える。陰に隠れて困っている子どもに気づけるよう、視野を広くし保育を行う。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・「陰に隠れて困っている子」に気付けるように配慮しつつ、一人ひとりの子どもの心身の状態をいち早く把握しようとしていることがわかる。 ・感情表現や言語表出が苦手な子どもや特別な支援を必要としている子どもの気持ちに注意が向いているのは、ひかり幼稚園教師の強みであり、更なる資質の向上を目指してほしい。			
行事	・行事は、子どもの思いが感じられる取り組みをしているか。	A	子どもの思いのままに創り上げられる活動のため、子どもたちの自主性や創造性が発揮されていると自負している。子どもたちが、自分の思いや言葉が形になっていく過程を経験できるよう、一緒に考えていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・子どもの発想や自発性を重視した行事の指導は生き生きと展開されており、保護者からも一定の評価を得ているようである。 ・行事指導をととして職員間に協働意識と心理の一体感が醸成されているが、小道具作成などの作業量が増える傾向があるので、立ち止まって振り返る視点が不可欠である。			
研修	・保育の質の向上のために、園内・園外研修が生かされているか。	B	たくさんの研修の中から、自分に足りない分野を選んで受けることができている。研修を受けて感じたことや学びについて、職員間で共有する時間を習慣化することで、アウトプットに繋げる。	B	B
学校関係者評価委員による意見		・近隣の小学校参観や放課後等デイサービス機関職員との相互訪問の結果として保育活動に反映されることが多いので、「改善の方策」の中で園内外の研修として位置づけることが望ましい。 ・研修結果報告の共有化が不可欠なのでいっそう努めて欲しい。			
保護者対応	・保護者に保育を理解してもらおう工夫をしているか。	B	保護者の心に寄り添いながら、子どもの様子と共に、大切にしている想いや保育観を交えてのお伝えすることを意識する。参観日など、実際に保育を見ていただく日の持ち方を工夫する。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・子どもの成長にとって保育活動に関する保護者と教員間の共通理解は車の両輪の関係にたとえられる。その際、保護者の思いや考えも様々で、全ての方に良く理解していただくのは難しいが、「工夫をしていく」という姿勢に裏付けられた実践を続けて欲しい。 ・本園の保育の実態を理解していただくために保育場面の公開と参観について検討することは適切である。			
連携	・地域や学校、デイサービスとの相互関係があると思うか。	A	子ども同士の交流だけではなく職員が学校見学やデイサービスに出向いたり、地域の方や教会の方と交流する機会が多かった。今後はさらに回数を増やすことで豊かな心の育ちに繋げるとともに、開かれた幼稚園として地域の方と手を取り合える環境を作る。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・今年は地域・学校・放課後デイサービス・教会等との連携による活動が多くなっていることがわかった。今後とも地域との交流の機会をつくり、「開かれた幼稚園」として地域に根ざすことが必要である。 ・地域社会全体で子どもを育てるためには、関連する機関同士の情報共有が大切である。他機関の活動情報は子ども理解を深め、日常の保育活動の幅を広げることから、この一年間の経験を土台にした展開を期待する。			